

中長期目標 (学校ビジョン)	○社会の中で自立して生活ができる力を育成する ○職業生活に必要な意欲と能力を育成する ○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体を育成する	今年度の 重点目標	職業人としての基礎的な力の育成 地域社会とつながりながら生きる力の育成 働きやすい職場、一人一人が成長できる組織づくり
-------------------	--	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 (9) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
職業人としての 基礎的な力の育成	○授業改善 ～指導と評価の一体化～	○各専門コースで学習指導要領に示された教科等の目標や内容を再確認し、年間指導計画の指導目標や指導内容を見直すことができている。 ○3年間を見通した学習内容の配当を確認することができている。	○教科の目標を達成するため、教職員が日々の授業を振り返り、授業改善に取り組んでいる。 ○生徒自身が何を学ぶかわかり、何が身についたかを振り返り、次の学びに向かうことができる。	○授業づくりがよりよいものになるよう、目標と評価を見直し共有する機会を設ける。 ○外部講師を招聘し、指導と評価の一体化へつながるための学習について検討したり、授業研究会で授業を振り返ったりして、授業改善を行う。 ○教育検証プロジェクトに継続して取り組み、教職員で成果と課題について共有する。			
	○キャリア発達を見据えた職業教育、進路指導の充実 ～自分を見つめる～	○研究・研修担当と連携した校内研修に取組んだり、年間指導計画の見直しを行ったりすることで、専門教科の目標を意識した授業づくりに取り組む教職員が増えている。また、「専門共通目標」を「専門教科チェック項目」に名称変更したことで、4つの項目についての生徒への意識のさせ方に変化が見られる。 ○専門教科の本時目標を意識して授業に取り組むことで、生徒自身が目標達成のための方法を考えながら授業に参加している。	○生徒が、日々の実習を振り返り、自分の得意なことや課題に気づき、働くために必要な力をつけようと授業に取り組んでいる。	○生徒への指導効果を向上するために、コース内での研修会を計画実施したり、学年間の情報共有したりする等、コースチーフを中心としたコース運営を行う。 ○就労に必要な資格取得のための講座や各種の技能検定を計画的に実施する。 ○研究・研修担当や進路部等の他分掌との連携を図りながら、就労に向けて必要な力についての研修会等を計画実施する。			
		○自己理解や主体的に考えたり決めたりする力が乏しく、進路選択の見極めが不十分な生徒がいる。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性が不十分なままに就職する生徒がいる。	○(1年生)自分の働く上での強みと課題を理解している。 ○(2年生)自分の適性をふまえて、進路を具体的に考えている。 ○(3年生)自分の適性をふまえて、進路を選んでいる。	○現場実習の学びが日々の学習や生活につながるように、学年団、学科部、進路部が連携して計画的に職業教育を実施する。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性を高めるために、生徒、教職員、保護者に対して授業や研修、通信等で社会人として必要な要素や卒業後の生活に関する情報を発信する。			
	○生徒指導、生活指導 ～よりよい生活習慣、判断力をつける～	○「生徒心得」の学校ルールが十分に徹底されていない。 ○TPOを意識した言葉遣いができていない生徒が多い。	○社会の中の一員として挨拶、身だしなみ、その場に合った言葉遣い等を守って生活できる。	○「生徒心得」等のルールを守る重要性や意義を理解させるため、統一した指導方針をLHRや朝の会、帰りの会を活用して全学年で随時指導する。 ○挨拶や言葉遣いを守る意識の向上を図るために、生徒会を活用した生徒主体の取組を展開する。			
		○互いの意見や考えを尊重して協力し合うことの大切さについて、生徒の意識が向上しつつある。	○互いの意見や考えを尊重して理解を深め、共に工夫し達成感を得る活動に取り組んでいる。	○HRや学年集会等で、生徒が主体的に活動したり、生徒同士で活動したりする場面を設ける。 ○学年主任会で各学年や専門教科での取組や成果を共通理解する。 ○学年会で各クラスの様子や学級活動等の工夫について情報共有したり、意見交換したりする場面を設ける。			
		○歯の健康についての意識は高まり改善の様子が见られるが、頭痛や腹痛等の心身の不調を訴える生徒が少なくない。寝不足や朝食を食べていない等、生活習慣が原因と考えられる生徒がいる。	○1日元気に活動できる身体づくりを目指し、適切な睡眠時間の確保や食事を摂取することへの意識を高め、実践しようとする。	○保健体育や家庭科等の関連教科との連携を図り、食事や睡眠の重要性を定期的に伝えていく。 ○保健・給食委員会の活動において、生徒が主体的に考え全校で取組める内容を検討し実施する。			
		○2,3年生は、寄宿舎生活における苦手なことにも折り合いを付けながら行動できるようになっている。 ○1年生は、初めての寄宿舎生活でより良い生活習慣を身につけようとしている段階である。	○2,3年生は苦手なことにも臆することなく前向きにチャレンジすることができる。 ○1年生は自分自身の苦手なことを把握し、必要に応じて職員に支援を依頼する等して、苦手なことにも上手く折り合いを付けながら行動できる。	○2,3年生については、これまでの生活チェック表によって自分で把握した苦手なことに対して、苦手意識を払拭できるような個に応じた指導・支援、声かけを行う。 ○1年生については、生活チェック表を活用しながら自分の苦手とすることを職員と一緒に確認し、それらに対して折り合いを付けながら行動できるよう、アドバイスしたり必要な指導・支援と一緒に考えたりする。			
	○学校運営協議会の活用 ～地域連携・企業連携の充実～	○昨年度、学校運営協議会を3回実施した。会議以外にも実際の授業参観や「ことカフェ」のランチ利用によって、より学校の様子を知っていただくとともに、生徒の励みとなった。また、地域と一体となった取組が従来の状況になってきている。	○幅広い分野から参加いただいている委員の方からの助言を受け、本校の魅力発信、地域と一体となった取組へとつなげていく。	○引き続き地域や企業の方の来校や地域に出かけての活動等、地域と関わる取組を進める。 ○地域との関わり、本校の魅力(生徒の活躍、取組の様子等)を積極的に発信する。 ○学校運営協議会において、就労の視点を含めた協議の場面を設定する。			

様式 3 地域社会とつながりながら生きる力の育成		○昨年度は、企業を対象とした学校公開「企業参観日」を１０回実施した。 ○企業とのつながりを作ったり保ったりする工夫が必要である。	○年間を通して実習先の１５％以上の企業が新規開拓企業である。 ○企業参観日を年間１０回以上実施し、現場実習の受入れにつながっている。	○関係機関との連携や企業情報データベースの活用を通して、積極的に企業新規開拓を行う。 ○企業参観日の案内を積極的に行う。 ○本校の取組や障がい者雇用について情報発信を行ったり、生徒とのマッチングにつなげるために企業のニーズを吸い上げたりする。 ○学校運営協議会において、就労の視点も含めて協議を行う。			
	○自治的活動の推進 ～生徒が考え、社会をつくる～	○気持ちの乱れにより規範意識が低い生徒がいるが、校則につながる様々な社会課題を自分事として考える生徒もいる。 ○自分なりの考えを持っている生徒や考えを広げたいと思っている生徒がいる。 ○自治的活動に関心を持ち、自主的に活動に取組もうとする生徒は少ない。	○よりよい学校生活を築くために、生徒が自発的に課題を見出し改善策を考えている。	○生徒主体による、全校レクリエーションや琴フェスを行う。 ○生徒会執行部を中心に生徒の意見を集約・整理・問題提起等する活動を通して、社会づくりの主体であることを実感させる。 ○生徒総会を年２回実施し、学校生活の課題等について話合う場を設ける。			
		○昨年度の寄宿舍歓迎会は検討する間もなかったため、職員主体の開催となってしまった。琴海祭以降の行事では十分な準備期間の中で一人一人がアイデアを出し合い、舎生主体で開催することができた。除草や大掃除は職員主体で行っていたが、今年度は自治会活動として実施する。	○琴海会行事や除草、大掃除等の自治的活動に舎生が主体的に関わり、企画・運営することができる。	○活動毎に可能な限り早い時期から役員へ提示したり、実行委員会を立ち上げたりして、十分な準備期間を設ける。また、部屋会やアンケートで意見を聞く等して、多くの舎生のアイデアを出し合える機会を設ける。			
		○各種のバラスポーツ大会に参加する生徒が増えてきた。遠距離通学の生徒が、部活動に参加しにくい現状がある。参加できる大会やイベントは増えてきてはいるもののまだ少ない。	○生涯を通して、文化的体育的な活動をしようとする生徒が育っている。 ○地域の中で、運動や文化活動に参加できる環境が整っている	○大会情報を案内し、参加募集するとともに大会の様子を知らせる。 ○週に１回でも参加できる体力づくりの部を新設し、参加を促す。 ○顧問会を中心に、魅力ある部活動になるよう計画や運営を協力して実施する。			
	○啓発・広報活動の工夫 (保護者、地域住民、小中学校、企業に開く)	○閲覧者に必要な情報が盛り込まれている学校ホームページやFacebookを随時更新し、YouTube等での学校の魅力発信を意識して取組むことができている。 ○地域や学校への公開や広報活動を、来校者の現状に合わせて拡大することができている。	○Facebookや学校ホームページ、学校だより、YouTube等の様々な媒体で、地域や企業、入学を検討している生徒に対し、学校の啓発・広報活動が進められている。	○学校の魅力発信を意識して、閲覧者に必要な情報が盛り込まれている学校ホームページやFacebookを随時更新していく。 ○地域や学校への公開や広報活動を工夫していく。			
		○体験入学希望者があまり増えない状況にある。 ○職業的・社会的自立を見据えた進路指導のあり方に課題を感じている学校が多いが、進路選択に向けた具体的な情報はなかなか伝わりきれていない。	○「琴の浦の教育」について発信したり、地域の関心や課題に応えたりするための工夫ができている。	○他機関連携の機会を捉えたり、アンケートの方法や内容を見直したりしながら、地域が求める情報やニーズを把握し、相談・支援につなげていく。 ○相談後の経過の聞き取りや確認を通して、継続的に地域支援活動を実施する。			
働きやすい職場・成長できる組織づくり	○校内研修・授業研究の工夫 (風通しのよい職場・授業づくりや研修を通した学びあい)	○時間外勤務の割合は減ってきているが、時間外業務の縮減が課題となっている。 ○校内研修・授業研究等を通して、職員間で協働して取り組む意識が高まりつつある。	○引き続き、業務改善を図り、時間外業務を縮減する。(月４５時間・年間３６０時間内) ○校内研修・授業研究会に積極的に参加し、お互いに授業を見合い、全員でよりよい授業づくりや研修を通して学びあいができている。また、自分の取組についての達成感を感じている。	○定期的に給与・勤怠システムを各自が確認し実態把握する時間を設定する。 ○継続して衛生委員会で時間外業務等の状況を確認し、年間を見通して業務の進め方等を工夫し、時間外業務の縮減につなげる。 ○各行事・活動等の計画・実施について、ねらいや状況に応じて見直しを行い、業務改善を図る。 ○各会議、研修会等で活発に意見交換できる機会を設定する。 ○学科部と連携し、一人でも多くの職員が授業を参観したり、事後研修会等に参加したりできる体制を整える。			

評価基準

A：十分達成

B：概ね達成

C：変化の兆し

D：まだ不十分

E：目標・方策の見直し

【100%】

【80%程度】

【60%程度】

【40%程度】

【30%以下】